

寸言

(一社)日本航空宇宙工業会
常務理事

佐藤 幸喜



就任にあたって

本年5月の当工業会第11回定時総会及び第47回理事会において選任いただき、高辻前常務理事の後を引き継ぐことになりました佐藤幸喜(さとうこうき)です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は、昭和61年3月に防衛大学校(本科第30期・電気工学科)卒業後、航空自衛隊に入隊し、航空機整備の分野で現場部隊(千歳、小牧、三沢)での勤務、後方支援を担当する補給処(木更津第1補給処、岐阜第2補給処)及び後方全体の予算執行に関係する補給本部の勤務、そして航空自衛隊の任務遂行に必要な予算要求と合わせ行政的な役割を担う航空幕僚監部(以下、空幕)での勤務、将来に向けた人材育成を預かる術科学校での勤務、飛行安全・地上安全確保に係る航空安全管理隊での勤務を通じ、非常に多くの先輩・同僚・後輩に巡り合い、また数多くの防衛関係企業の皆様とのご縁を頂戴しましたことは、私自身にとりまして貴重な宝物であることを痛感しております。その中でも特に記憶に刻まれていますことがあります。

それは、初めて空幕に配置されました平成12年の装備部装備課計画班担当者時代です。主たる任務はF-2型戦闘機の日米政府間合意に基づく了解覚書(Memorandum of Understanding: MOU)に係る交渉でした。この時初めて、技術情報の開示・非開示(派生か独自かの論証等)について関係企業の皆様のご協力を得ながら日米交渉に通訳兼務で参加、わが国の知的財産分野における国益確保の重要性を認

識することとなりました。付随的な成果として内容不同意を日本語で全身全霊をかけて相手に伝える直属上司の妥協を許さない真剣さと、すぐ横で熱量を感じながらも真意を同時通訳で伝える冷静さの重要性を痛感しました。この体験から、外国映画を観る時にはけんかするシーンを期待しながら英語を追いかける癖がついたのも必然であったかもしれません。

話は変わります。新型コロナ禍で人と人が直接対面、表情や全体の雰囲気などを感じて話していく形式から、Web利用オンライン形式での会議が主流になるなどこの2年半で大きく環境が変わりました。これからのウィズコロナの時代にあっても、対面方式での表情・仕草・熱量などの相互作用によって成長する過程が必要とされることを願ってやみません。私が愛してやまない剣道において「知行合一」という言葉があります。単なる知識を有しているだけでは無意味で、実践という行動をもって具体的に示し、その過程で知識が本物に生まれ変わるといふ趣旨で使用されます。かの宮本武蔵が千日の稽古をもって鍛となし、万日の稽古をもって錬となすと遺しています。日本航空宇宙工業会の一員となり、微力ではありますがこの「知行合一」を胸に刻み、今後の業務遂行にまい進していく所存です。皆様からのご指導ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

なお、現時点で担当業務内容を掌握途上ですので半年前後を目途に再度、寄稿させていただくことをお約束して、私自身の「知行合一」第一弾と致します。